

／／／／ I N D E X ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

- ・ ISO 関連解説----- ISO14068 の番号と題名が元に戻りました
- ・ LCA の実務 mini 43---○良いことだけを言うとグリーンウォッシュ
- ・ LCAF からお知らせ---○オンライン初級検定がもうすぐです
○国や地方自治体の LCA/CFP 算定支援事業のお手伝いをします。
- ・ 編集後記-----海外出張で休暇？

■■ ISO 関連解説：ISO14068 の番号と題名が元に戻りました ■■

製品や組織がカーボンニュートラルであることを宣言するための規格である ISO 14068 : 2023 の番号と題名が「Climate change management-Transition to net zero-Part 1: Carbon neutrality」から「Climate change management-Carbon neutrality」に変わりました。「Transition to net zero-Part 1」が削除されて、私たちエキスパートが発行直前まで議論していた元の名前に戻ったということです。

「Transition to net zero - Part 1」は、この規格が発行される時に ISO 中央事務局が勝手につけた題名です。2023 年の発行当時に、組織（企業）がネットゼロに向かうために行うことを示す「ISO/DIS 14060 : Net zero aligned organizations」が始まったので、この規格と一緒にして「Net Zero」関連の規格にして枝番（Part-1）を付けるという ISO 中央事務局の判断だったと思います。しかし、ISO14060 の作成が遅れ、現状でやっともうすぐ DIS になるという状況ですし、「Net Zero に向かうための ISO14060」と「カーボンニュートラルであることを宣言する ISO14068:2023」の違いが認識されたのではないかと思います。

それにしても、ISO14068:2023 を発行するときには ISO 中央事務局が勝手に題名を変えて、元に戻すときには参加国の投票で決めるという手続きはなんか変だと思います。気候変動に関する最近の ISO 中央事務局の迷走の表れではないでしょうか。

■■ LCA の実務 mini 43 ; 良いことだけを言うとグリーンウォッシュ ■■

下の「LCAF からのお知らせ」に紹介しているように「グリーンウォッシュ」の本を翻訳しました。この本に良く出てきますが「良いことだけを言って悪いことを言わない」のは典型的なグリーンウォッシュとされています。この考え方は ISO などのガイドラインに良く現れます。

たとえば、昨年 7 月に WBCSD が削減貢献量(Avoided Emission)のガイダンスをだしました。企業が複数の製品を製造するのは普通のことですが、それらの中で削減貢献量が大きい製品だけを算定し公表するのは「グリーンウォッシュ」と言われる可能性があります。削減貢献量が小さい製品、もっと言うと GHG 排出量が市場平均よりも大きな製品を隠していると疑われるからです。WBCSD はこの批判に対するために、削減貢献量を算定してよい企業の制約条件を示しています。その一つが、企業全体の GHG 削減戦略を示すことです。Scope3 の算定と公表が望まれています。

現在改訂中の ISO14067（製品の CFP）と ISO14064-1（いわゆる組織の CFP）の電力のロケーションベースとマーケットベースの議論もこの考え方が背景にあります。マーケットベースは再生可能電力などの証書を買って算定する方法ですが、社会全体で見れば化石燃料発電を含む電力網があり、それを使うのが普通であるにも関わらず自分だけ GHG 排出が小さい電力を使っていると主張するのはグリーンウォッシュだという見方です。マーケットベースの算定でのもう一つの批判は、ロケーションベースで算定された電力網の GHG 排出量には再生可能電力も含まれているので、社会全体では再生可能電力がダブルカウントされているという理由です。

電力のロケーションベースとマーケットベースの議論では、日本のように SHK 制度が確立していて、全部の発電企業が GHG 排出量を公表している国はごく稀であることに注意する必要があります。

■■ LCAF からのお知らせ：オンライン初級検定がもうすぐです ■■

○今年度最初のオンライン初級検定を行います。

- ・ LCAF オンライン初級検定：6 月 13 日（土）

以下からお申込みください。

<https://lcaf.or.jp/education/>

- ・前回までで初級検定合格者が 422 名になりました。あなたも仲間になってください。

○国や地方自治体の LCA/CFP 算定支援事業のお手伝いをします。

- ・例えば以下のように、国土交通省は建材等の CFP 算定を支援しています。
LCAF ではこのような支援事業に、応募の準備から採択後の算定のお手伝いをします。
- ・国土交通省支援事業：CO2 原単位等の策定に係る支援>
<<https://www.kkj.or.jp/gx-dx/index.html>>
- ・まずは、30 分の無料の初期相談で支援を受けたい内容をご相談ください。
<https://lcaf.or.jp/technical_advisory/>

○[再掲です] 参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」の第 4 刷を発行しました。

特に「第 12 章：LCA と国際標準規格」に最近の ISO の発行状況を反映しました。

以下からお申込みください。(3,000 円＋税＋送料) です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

○[再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。

- ・「地球にやさしい？一偉大なるグリーンウォッシュ」3,190 円（税込）です。

■■ 編 集 後 記：海外出張で休暇？ ■■

ISO の会議に参加するために海外に行くことがあります。空港から会議の場所に近いホテルに直行し、次の日から会議に参加し会議終了の翌日に帰国します。国費による出張ですので、会議参加以外の滞在は許されません。一人のことが多いので夕食もスーパーのサンドイッチで済ませることが多くなりました。年と共に夜に観光に出かける気力がなくなってきました。

海外の人は、出張先で休暇を取って滞在を延長することが許されているようです。日本で ISO の会議を開催してほしいと良く言われます。なかなか実現しません。。。

産総研や大学にいたころは、研究発表のための国際集会への参加や調査事業があったので、ISO の出張と比べると少し自由がありました。出張先で休暇を取ることは許されていませんでしたが、土・日が挟まると「資料整理」という滞在になりました。

今あこがれているのは、カルチャースクールなどでよくある「〇〇先生と行く欧州の〇〇見学の旅」というようなツアーです。私が海外の LCA 専門家との面談をセットしますので、「稲葉さんと行く欧州 LCA ツアー」を企画してくれる旅行社がないのでしょうか？ ISO の会議だけでは LCA の動向調査ができませんし、また LCAF で調査に行く余裕もないので困っています。

元に戻します。東大の先生に、海外出張先で 5 日間まで休暇を取ることが許されるようになったと聞きました。海外での生活や文化に触れることは国際協力の基礎として重要なことだと思います。大学や国・地方自治体、また、財団・社団や企業によっても独自の規則があるだろうと思います。出張先での休暇の取得について、皆さんの所属組織の規則を教えてください。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで

lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5F

電子メール：a.inaba@lcaf.or.jp

電話：090-1423-0863

URL：<http://lcaf.or.jp/>